

# それで治安が守られているのか

## 大量執行の時代

### 死刑について考えてみませんか

東京拘置所のそばで死刑について考える会（そばの会）

4月10日、鳩山法務大臣は就任以来3度目になる死刑執行を行ないました。今回、東京拘置所の2人を含む4人を同日執行したことにより、わずか4カ月間に計10人の死刑がなされたこととなります。「一人を殺せば殺人者だが、百万人を殺せば英雄だ」とはチャップリンが映画で喝破した言葉ですが、鳩山氏は「殺人者」なのでしょうか、「英雄」なのでしょうか。

★★★

4月15日付で、アムネスティ・インターナショナルは、昨年の世界の死刑状況を発表しました。2007年、死刑の執行を行った国は24カ国。少なくとも470人を執行した中国を筆頭に、イラン（317人以上）、サウジアラビア（143人以上）、パキスタン（135人以上）、米国（42人）、イラク（33人以上）、ベトナム（25人以上）、イエメン（15人以上）、アフガニスタン（15人）、リビア（9人以上）の次に日本（9人）が続きます。現在のように執行が続けば、日本は、来年、ワースト10に入ることは間違いありません。

この死刑の乱発によって「治安」は守られているのでしょうか。逆に「死刑になるんだ」とばかりに起こされた殺傷事件が報道されています。「死んで償え！」というバッシングは、「どうせ死刑になるんだ」と、その道づれを求める捨て鉢な行為に、この社会で生きる重圧に耐えかねた人たちを駆り立てていないでしょうか。

★★★

東京拘置所で今回執行された二人はいずれも、一審判決は無期懲役でした。あくまで死刑を求める検察側の控訴により高裁で死刑判決となってしまった人たちでした。Sさんはそのまま、上訴せずに死刑が確定しました。Aさんは、事件の一部について否認しており、恩赦請求を準備中でした。諸外国のように検察側の上訴が禁じられていれば、少なくとも死刑になることはなかった人たちでした。

★★★

生前にAさんは献体の手続きをとっていました。それは、彼の罪を償う思いの一つの形でした。関係者の尽力により、遺体は東京拘置所から医大に運ばれるまでの間、ある教会に安置され、親族や交流のあった人たちとの最後のお別れの集いを持つことができましたそうです。

4月19日には、都内で死刑執行に抗議する集会が持たれ、Aさんの遺した絵画や、歌集も紹介されました。

彼の遺した自由律短歌に「未来へと旅立ちのベルが鳴る 鳴り止まぬうちはまだ何か出来る」というものがありました。今、全国で100人を超す死刑確定囚にベルが鳴り続けています。